

ノウルを基点に地域の未来を生み出す取り組み
(創造と伝承)

大切な視点：不安な点、気になる点からの大切な視点

使い方のルールや、誰もが使える、使やすくなるための仕組みづくり

日付 2024.9.14

メンバー 宮崎(PT)

細川修一さん、佐藤康之さん

森川高貴さん、丹野しおりさん、梅村恵子さん

取り組みべきアイデア／取り組むべき地域の課題（まずやってみたいアイデア／まず取り組んでみたい課題）	第一回のアイデア	地域の課題（社会的裏付け）	方針	ノウルでやりたいこと、できること（ビジターセンター／ガーデン／ショップ／レストラン）	必要な役割／人／しくみ	わたしが・地域ができること
例	果樹や野菜の加工	稼げる仕組みが足りない	地元の産物を生かす	シェアキッチンで、長岡の果物・野菜・小麦（キズものや規格外など）を使った保存のきくオリジナル商品の開発 →ショップで販売	・食材提供する生産者 ・レシピを考える料理人 ・宣伝／PR ・ストック保管庫 ・保健所許可	・野菜は提供できる ・りんご出せる ・ぶどう出せる ・食の匠やシェフと一緒にレシピを考案できるかも ・チラシや商品ラベルなど作れる ・SNS 発信できる
	■ 地域外からノウルに来るしくみ（手段） ■ 地域内からノウルに行くしくみ（手段）	交通手段が足りない しゅまる号、456号バス、TAXIもなし 転出（流出）の要因にもなっている 農業者に余裕がない（稼げない、担い手不足） 地域に必要な人のマッチングができていない （なぜ、手配、技術、車、人、手さぐり、疲れている） つながりが弱くなっている	安心して暮らせる仕組み 地域の人のいう資源を活かす ＋環境資源をみかく 帰る人、定年後、働きに繋がるきっかけ 小さな実験をくりがえす	■ 地域内移送（支援）サービスの創出 ■ ライドシェア ■ サイクリングロード設置（整備） ＋安心して歩ける、シニアも ■ サインの設置	■ 社会実験 ■ 帰る人へのあぶり出し ■ できることリスト作り 免許の有無、何かの経験 ■ 学習会	■ 農業期の手伝いができる ■ 農閑期のしゅろ教える ■ 北上川沿いの風景から地域の景観を四季を通して楽しむ → 現在、草刈りは地元が担っている 今後のことも考える時期にはなっている

絶対条件：世代を問わない 地域で暮らす人 気軽に行ける場 誰かに会える場 地域に愛される場